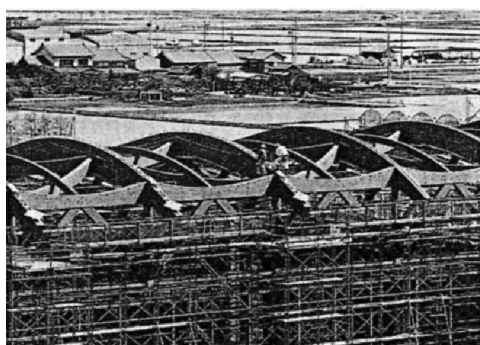
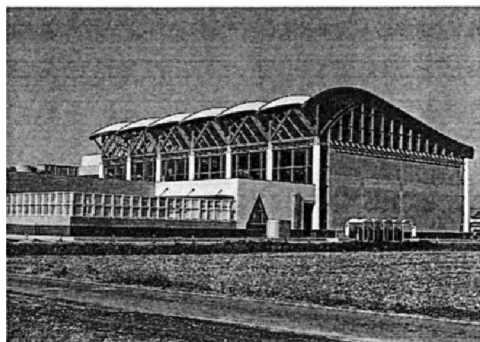




プール内部



屋根架構



プール外観

==== 飛島村すこやかセンター ====

愛知県飛島村は、全国でも有数の木材輸入港（名古屋港西部木材港）と木材団地を有するという土地柄もあり、木造の採用となった。

約7,000㎡あるセンターは、保健センター、図書館、プールなどの複合施設になっており、この内のプール棟の屋根が構造用集成材で架けられた。

屋根は波のイメージでアーチを描いており、集成材は小梁も含めて全体で約300㎡使用されている。内部は樹木が屋根を支えているイメージでデザインされている。

明るい温泉プールを大きな空間で造ることから、屋根は32mのスパンとなっており、そのため36cm×150cm×37.6mの大断面の大梁が使われている。

(株)青島設計 勝股 浩二
愛知木材(株) 間瀬 英男

支部長就任挨拶

日建設計 齊藤 幸雄

—設計者として思う事—

支部長就任にあたって、日頃考えている事の一端をお話したいと思います。

バブル崩壊、そして兵庫県南部地震による大災害により構造設計を取りまく環境が大きく変化しています。構造形式も従来の耐震構造に加え免震構造を中心とした制震構造が急増し、構造種別もハイブリッド構造が増加するなど多様化が進んでいます。その一方で既存建物の耐震診断、改修が急ピッチで進められています。

そして今、「性能設計」という多少えたいの知れない船に我々は乗せられようとしています。

性能については、我々が意識するしなに関わらず、完成した建物は結果としてその建物固有のものを有する事になります。今後は設計者だけの判断ではなく建築主の意向もふまえ、より積極的に取り組む事が必要になります。特に安全性能に関しては、構造設計者の手に全てが委ねられているのです。それだけに責任は重大ですが、一方でやりがいも出てきます。ただ、その性能を確認するのは至難のワザと言えます。また、今はまだ視界不良でどんな世界にたどりつくかよくわからない状態ですが、来年には建築基準法の改定が予定され、時代の波に足元が大きくゆらぎそうです。

さて、現在我々が日常行っている設計で一体何がわかっていて、何がわからないのか一度ゆっくりと考えてみるのも良いかもしれません。設計とは本来創造的行為であり、良くわからない事があっても設計者の判断で決めねばならない事が多いものです。

車の場合、安全性に関してはある性能を設定し、それを満足しているかどうかをくり返し実験することで、性能を明らかにすることができ、ユーザーの信頼を得ることにもなります。又、製品も高度な品質管理により一定の性能が確保されていると言えます。

しかし、建物の場合には実物で実験することはほぼ不可能で、その意味においてぶっつけ本番であり、地震が起きないと性能が確認できないことになります。もっと言えば、又別の地震が起きれば予想外の事が起きる可能性もあるわけです。つまり、どうなるかよくわからないというのが本当の所かもしれませんが、それでもより良い方向へ持っていくためには、設計者としての確かな目、判断力を見につけるしかないわけです。



齊藤支部長挨拶

例えば安全性を確認するために、一般に行われている地震時の静的解析や、高層ビルで主として行われている動的解析もその前提となる入力地震動を特定しているわけですからその意味において「特解」を得ているにすぎません。これをどう読みかえれば一般解になるのが設計者に課せられた重大な課題であり、設計の本質に関わる事なのです。しかしながら、地震被害を見る機会は少なく、ましてや建物が崩壊していく様子をまのあたりにすることはまずありません。このような状況を考えると、私達の行為は想像を創造しているかもしれません。

ところで、日本の伝統的な木造建築で建設後1000年以上を経たものが100棟(?)程度残っています。そのほとんどは国宝に指定されていますが、1000年という年月は想像を絶する長さです。これらの建物は耐久性はもとより、耐震性、耐風性を兼ね備えていることが実証されているわけです。これを可能にしたのは先輩たちの技術の伝承と新たな技術への挑戦そして建築にかけた情熱だと思います。

このような伝統建築に負けないためにも今年の中支部の活動では、プロフェッショナルな構造設計者の集団として設計の本質についてフランクに語り合える場を提供できればと考えています。そこに多数の会員が参加できればそれが最も望ましいことです。そして時には夢を語り合えればと思います。

特に若い人にはそのような場が必要ではないか、又、そうすることで支部の活性化につながるのではないかと考えています。このようなことも会員の方々の協力なくしては事は成就しません。御協力をお願いします。

中部支部1997年度通常総会報告

去る、5月27日に弥生会館にて1997年度中部支部通常総会が開催されました。

当日は、出席者34名委任状158通の計192名により総会は成立し下記議案を審議いたしました。

議案1 1996年度支部事業報告の件

議案2 1996年度支部収支決算の件

議案3 1997年度支部役員等の選出の件

議案4 1997年度支部事業計画の件

議案5 1997年度支部収支予算の件

各議案とも慎重な審議の結果満場一致で承認されました。今回の役員選出では支部幹事の半数が交代され、支部幹事平均年齢が若干若返りました。

総会終了後、技術・広報・事業の各委員長よりこの1年間の活動報告がされ第1部が終了いたしました。

引き続き第2部講演会は、三重大学工学部建築学科森野教授をお招きし「ハイブリッド構造の現状と展望」と題して講演を戴きました。

講演開始時には賛助会員を含め約70名の方が集まり熱心に講演を聴いてみえました。

講演は、OHPを使用しながら進められ

(1) ハイブリッド構造の概説

異種材料で構成される合成構造と異種構造を組み合わせる構成される混合(複合)構造の総称で、端部がRC構造で、中央が鉄骨造のはりのような部材レベルの組み合わせから、RC造の耐震コアに鉄骨造の周辺骨組みを配したような構造システムの組み合わせまでと多岐にわたっている。

(2) ハイブリッド構造の動向

学会への論文発表では1989年までは、部材単位ない



総会風景

しは部材組み合わせのハイブリッド化に集中していたが、近年はこのほかに構造システムのハイブリッド化とハーフpcaを加えた4分野がほぼ均衡している。

(3) 良く用いられるハイブリッド構造

コンクリート充填鋼管構造、アンボンドブレース及びブレース入りRC耐震壁を有する構造、RC柱+S梁構造、S骨組み+RC耐震壁構造、RCコア+S骨組み構造の機構及び特性

について約1時間半にわたり講演頂きました。

引き続き夕方より催された懇親会には来賓、正会員、賛助会員で約100名が参加していただき大変にぎわい、和らぐ内に時間が過ぎ、終了時間際に前支部長の本郷智之氏より構造家懇談会創立より現在まで16年間JSCA活動に参画した感想が話され懇親会は終了しました。

中部支部自身の賛助会組織を作る計画も有り、より多くの方々にJSCA活動に参加していただき、活力のあるJSCA中部支部のために会員各位の御協力をお願いいたします。

事業委員：(株)野口建築事務所 大野 勝由

— 第4回 JSCA 中部支部海外研修旅行のご案内 —

— F. L. ライトから鉄とガラスの建物まで —

当支部では、2年に一度の予定で海外研修旅行を企画しており、今回は第4回目としてシカゴを中心とした北米建築視察旅行を企画いたしております。

是非この機会をご利用くださいます様、ご案内申し上げます。

日 時 / 1997年10月8日(水)～15日(水) 7泊8日(機内1泊)

料 金 / ¥229,000 (名古屋発着、エコノミークラス、2人部屋)

旅行主催 / 近畿ツーリスト(株)名古屋海外旅行支店

問い合わせ / (株)野口建築事務所 大野まで

TEL. 052-935-7007 FAX. 052-937-8533

支部長退任に当たって支部会員の皆様へ



日建設計 本郷 智之

4年間の中部支部長在任中に寄せられた皆様の御鞭撻と御協力に対し心よりお礼申し上げます。中部支部の活動がここまでこれたのは、皆様の御努力のおかげと感謝致しております。何事もきちんと

やらないと気が済まない性格故に、皆様には厳しい事を申し上げた事もありました。これも、構造家が世に認められる為の一課程であったと御寛如いただければ幸いです。1981年の中部支部設立以来16年間の支部役員としての活動を終えるに当たって、過去を振り返り、今後の活動の参考にさせていただければ幸いです。

1981年5月29日に、構造家懇談会が正会員100名で発足した5ヶ月後の10月30日に、中部支部は正会員38名で発足しました。中部地域在住の会員、大塚一三さん、渡辺誠一さんと私の3人が世話役となり、各社の代表者の人達に連絡を取り、数回の支部設立準備会を持ちました。その結果早く支部を設立しようという考えが大勢を占め、早い時期の支部設立となりました。初代支部長には、この地域の構造設計界の大先輩である北内博雄氏にご就任いただき、私が事務局としてお手伝いすることになりました。支部設立に当たって大きく問題となったのは、どんな活動をするかも大切でしたが、経済的裏付けであったように思います。他に頼る手だてはありませんので、とりあえず支部会費一人年額5000円でスタートしました。初期の事務局の活動は、会社の片手間でしたから大した事はできませんでしたが、大林組の奥井さんと相談しながら進めたように思います。

初期の活動は主に、1981年6月から施行された新耐震設計法の勉強会と外の人を招いての各種講演会でした。新耐震設計法については、支部の技術委員会の中に分科会を設け、勉強した成果をまとめて支部会員に配布しました。その後、技術委員会は独自のテーマを設け、年度毎にその研究結果を支部総会の時に会員に発表するのが慣例となりました。一方の講演会や座談会は、構造関係の先生方や構造家の方々のものもありましたが、構造関係以外の方々の講演も多く、他分野の話聞く事に多大な関心があったように思われます。それらのいくつかは、支部会員の手でまとめられ、structureに載せられています。

内部での活動から外に向けた活動の第一歩が、1885年建築技術に6回シリーズで連載した「柱脚の設計と施工」ではなかったかと思えます。当時、大同工業大学

の教授であった石黒先生からお話があり、東京大学の秋山先生の御助言を得ながら、支部技術委員会を総動員して執筆しました。原稿のまとめの時は、連日読み合わせをしたように思います。異種構造の接点としての柱脚は軽視されがちでしたが、当時の少ない研究成果を集め、実務家としての視点から、設計と施工の留意点をまとめたつもりです。

1987年度からは、技術委員会の中に構造設計部会が設けられました。会員が自分の設計した建物を紹介し、出席者が自由討議を行うものです。我々構造家の勝負するところは、結局は作品であり、普段どちらかというと構造設計はブラックボックス化しており、他の人の目に触れる機会が少ないだけに非常に良い試みだと思って始めましたが、今に至るまで続いています。しかし、JSCA賞と同じく、大規模建築、大組織に偏りがちで残念な事だと思っています。日常多く設計されている通常の建物にこそいろいろ身近な話題があるはずで、今後の運用が期待されます。

対外活動の一つに「行政側とJSCAの懇談会」があります。資料によると、支部設立直後の1982年1月26日に初回の会合が持たれています。行政側といっても、支部事務局の所在地である愛知県と名古屋市に限定されています。以来毎年1回開催され、その時々の構造設計及び監理に関わる、主として確認申請時に問題となる事項について討議され、内規等の中に反映されて来ました。設計の自由度をできるだけ確保するという考えのもとに継続してきましたが、現在この会合は「構造懇談会」として常設の委員会として、実務的協議が続けられています。当初は全国的な規程に拘わらず、愛知県独自の判断、規定もありましたが、次第に東京都の規定等と統一の方向にあります。こうした会合の積み重ねが関東地域を含めた各支部のなかでも、当中部支部が行政側とJSCAの関係がうまくいっている結果になっていると思われます。その延長線上で、最近では、「耐震診断」に関して、愛知県や名古屋市の耐震診断の判定委員会や改修促進法に基づく認定のための委員会にJSCAからの派遣という形で多くの委員を派遣しています。ただ、残念なのはこれほど構造設計の世界ではJSCAを評価していただいているにも拘らず、地元耐震診断の報酬が他地域に比べて低いということです。

structureが主として全国版なので、支部会員の情報源として、1985年からは「構造懇中部」が発刊されることになりました。当初は年3回の発行で支部会員にのみ配布されていましたが、法人と共に「JSCA中部」となり、年4回全国配布されるようになったのは、皆

—事務局の思い出—

日総建 松久 哲雄



日建設計の豊島さんから事務局を引き継いだものの、それ迄の態度を償うべきといわんばかりに事件の続く4年余の年月であった。本郷支部長・支部役員の方々始め、支部会員のご指導、ご支援、ご協

力によりなんとか継続できた。

建築構造士、最初は受験生と世話役との二役。特別研修講習には小論文と面接試験とを含み、その内容により技量を判定、建築構造士は認定された。ベテランの方でも多くの面接試験を受けた方は少なく、大半の方は大変な緊張をされていた。その後試験委員を担当する事になり、面接をさせていただく機会もできた。短い時間内で、構造士にふさわしい人であるかを判断するのは難しい。ご自分の意見を述べる事ができた方は、大方合格されたのではないかと考えている。そのような時、あの忌まわしい大地震は発生した。中部支部としてできる事からと思い、本部からの要請にも積極的に対応した。兵庫県南部地震被災度判定体制支援会議及びその後の建物調査活動として、中部支部会員にボランティア参加をお願いした処、40名を越える参加希望があり、事務局を預かる者として頼もしく思い本当に嬉しかった。そして今、新耐震で設計された建物と聞いて入居したけれど、壁が裂けて外が見える状態だ、手抜きと言われる種類のものかという相談であった。

被災された方の親身になって相談にのることも大事であった。しかしその前に、構造技術者と会社との考えの差を少なくしておく努力があったかと思っている。構造技術者は同じ厚さのコンクリート壁であっても、建具をとめる方立壁を雑壁と呼び、柱間にある無開口壁を耐震壁と呼んでいる。入居者にとっては同じ壁で、亀裂がどの壁に入っても不都合に感じるのは理解できる。構造技術者の考えと、新基準で造られているから大丈夫という入居者の期待感との差があり過ぎた。不動産屋と入居者との会話の中に、建物の構造性能の話が行われているとは思えないし、建築主と構造技術者との間でも、この種の話は事故でもない限り話題にもならなかったと思う。性能設計が始まろうとしている昨今、構造技術者に期待される事と範囲、そして責任も増えていくものと考えている。

多くの事故があり、生涯で印象深い数年を過ごす事ができたことを感謝しています。ありがとうございます。

様御承知の通りです。

JSCAのアクションプログラムの一つとして「既存建物の耐震安全性」の仕事を引き受けて来た時には、皆さんの中には若干の戸惑いもあったと思います。しかし、進行中のテーマであるだけに、拙速を恐れず、半年を目途に、資料の寄せ集めではなく独自性をもってまとめるという目標で、皆様には大奮闘していただきました。この報告書が会員の皆様にどれほど役だったかは解りませんが、とにかくまとめたという実績は大きいと思います。

一方、中部支部の活動を支えるにはやはりお金が必要です。そのために数々の講習会が行われました。他の学協会の講習会とは一味違い、実務にとって必要と思われる内容、特に若手構造家向けの講習会を、主に手作りによって行ってきました。これでお金を儲けるというのではなく、支部の活動領域を広げようという事です。見学会等を含めた事業委員会の活動がここ5～6年で活発になって来たのは、その人を得たからといえるでしょう。

中部支部は東海4県と北陸3県より成っており、北陸部会、静岡部会があり、それぞれ独自の活動をされています。ある時期からは支部予算の中に若干の部会活動費が組まれています。支部長を退任するに当たり、申し訳なく思いますのは、中部支部とは言いながら部会活動を除けば、その活動は多くが愛知県に限定されて来た事です。この点は、今後の支部運営にゆだねていきたいと思っています。

以上、いろいろとまとまりなく述べてきましたが、これら中部支部の活動も、歴代の北内、渡辺支部長の御努力、又大塚一三さんの大所高所からの御発言、歴代の各委員長、事務局長はじめ支部会員の皆様の大変な努力の賜と思います。あまり歴史を語ると過去の人になってしまいますので、この辺で終わります。幸い、中部支部は新しい気鋭の支部役員の下でスタートすることになりました。基準法の改定、資格問題は目前に迫っています。1981年当時、法改定に実務家の意見が取り入れられなかった無念さの下に発足した当会は、再び同じ場面に立たされています。今回を逃すと、構造家の地位向上は望めないでしょう。資料を調べていたらstructure 2号に建築士法(構造士)改正についてという1981年10月30日付で建設省に提出されたメモの写しを見つけました。その第2項には「確認図書には構造担当者の署名捺印欄を設ける」とあります。世代の違う会員がそれぞれの立場で積極的に行動され、構造家の未来が開ける事を祈念し筆をおきます。

中部平成9年度支部組織構成

支部役員会

本会理事 齊藤 幸雄 (日建設計)
 藤田 良能 (清水建設)
 橋村 一彦 (竹中工務店)
 支部長 齊藤 幸雄 (日建設計)
 副支部長 橋村 一彦 (竹中工務店)
 和宇慶朝武 (東畑建築事務所)
 支部幹事 橋村 一彦 (竹中工務店)
 田中 道治 (清水建設)
 佐々木貴司 (鹿 島)
 小西 立行 (青島設計)
 鈴木 勉 (石本建築事務所)
 武貞 建二 (大成建設)
 谷河 修二 (大林組)
 小西 義昭 (小西建築構造設計)
 井上古之助 (井上設計事務所)
 支部監査 平田 肇 (安井建築設計事務所)
 松久 哲雄 (日総建)
 顧問 北内 博雄 (北内構造設計事務所)
 大塚 一三 (河合・松永建築事務所)
 事務局 野田 泰正 (野田建築事務所)

技術委員会

委員長 橋村 一彦 (竹中工務店)
 副委員長 熊本 雅彰 (熊谷組)
 副委員長 兼幹事 桐山 宏之 (日建設計)
 事務局 沖倉 敏明 (竹中工務店)

事業委員会

委員長 田中 道治 (清水建設)
 副委員長 飯島俊比古 (飯島建築事務所)
 書記 鈴木 勉 (石本建築事務所)
 会計 大野 勝由 (野口建築事務所)
 委員 藤田 良能 (清水建設)
 西垣 要治 (大成建設)
 斎藤 正 (熊谷組)
 伊藤 正 (竹中工務店)
 山本 亨明 (富士設計)
 谷河 修二 (大林組)

広報委員会

委員長 佐々木貴司 (鹿 島)
 副委員長 青山 邦男 (竹中工務店)
 委員 深尾 章由 (丹羽英二建築事務所)
 武貞 健二 (大成建設)
 山崎 俊一 (清水建設)
 浅川 公人 (伊藤工務店)
 安江 芳紀 (鋼構造出版)

北陸部会

部会長 小西 義昭 (小西建築構造設計)

静岡部会

部会長 井上古之助 (井上設計事務所)

計画部会

主査 安藤 誠 (ANDO構造設計)

鉄鋼系部会

主査 桐山 宏之 (日建設計)

コンクリート部会

主査 浅井 則和 (豊田総建)

地盤系部会

主査 大野 富男 (日建設計)

設計法部会

主査 和宇慶朝武 (東畑建築事務所)

性能部会

主査 熊本 雅彰 (熊谷組)

行政懇談会部会

主査 橋村 一彦 (竹中工務店)

耐震診断部会

主査 飯島俊比古 (飯島建築事務所)

コンクリート構造物を
元気にしたい

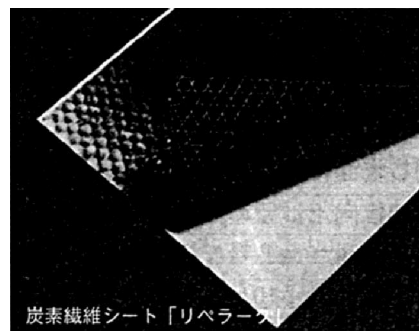
〈先端新素材を
補修、補強に活かす〉

鉄よりも強く、アルミよりも軽く、さびない

コンクリート柱・煙突耐震補強 (防災協会認定工法適合材料)

CFルネサンス協会

三菱化学㈱ 複合材事業部内
東京都千代田区有楽町1-10-1(有楽町ビル8階)
〒100 TEL.03-3287-8057 FAX.03-3287-8058
名古屋市中村区名駅3-28-12(大名古屋ビル7階)
〒450 TEL.052-565-3508 FAX.052-565-3579



炭素シートによる
構造物の補修、補強工法



私の好きな建物

—もろもろの建物—

(株)伊藤建築設計事務所
富田 博明



人間がいいかげんだからかもしれないが、どの建物が好きかと聞かれても答えられない。

好きな建物は年とともに変わっているし、時代の影響も受けていると思う。

建物を見て最初にいいなと思ったのは、南山学園の教会、とくに礼拝堂の中から見たステンドグラス。設計は調べてないがたぶんA.レーモンド。高校生の頃に東京オリンピックがあった。代々木体育館の吊り屋根が浮かんでくる。学生時代は、ミースの鉄骨建築、ネルビイやキャンベラの大空間建築に憧れた。建築学会のCAD視察（'88年4、5月）でシカゴへ行った時、だいぶ古びていたがミシガン湖畔でレイクショアードライブアパートをみて感激した。とくに玄関のひさしが印象に残っている。

JSCA中部の香港研修（'91年11月）では、I.M.ペイの中国銀行。JSCA中部でリレハンメルオリンピック施設を見に行った時（'93年10月）は、半分地面の中に埋もれたなんとかの教会。

最近見た建物では、葛西臨海公園の展望広場ゲストハウス。東京フォーラムはスケールが大きすぎて好きではない。これらの建物の写真で自分で撮ったものを探しているうち見つけたのが左の写真です。



私の好きな建物

—神戸ポートタワー—

(株)大林組
谷河 修二

神戸の町を僅か10数秒で破壊したあの大震災から2年以上が過ぎた。港メリケン波止場にポートタワーが今も静かに建っていて我々を励ましているかの様である。高さ108m、32本の赤いパイプを組み合わせた鼓状の形を持つ美しいタワーである。

東側のポートアイランドに続く六甲アイランド、西側にはモザイクで有名なハーバーランドが隣接し、建設当時には考えられなかった周辺の眺望である。

昭和38年竣工とのことであるが、その一年後私は神戸のある高校に通い初め、間近に見るタワーは、当時かなりのインパクトを市民に与えたと思う。

神戸あるいは日本が以後東京オリンピック、大阪万博等高度経済社会へと進んで行き、私自身も漠然と「建物はカッコいいなあ」と思い始めた時期と重なっている。今となっては唯々、懐かしいと思うのみである。



「若手構造技術者のための設計と施工講習会」開催される

中部支部事業委員会、技術委員会共催により表題の講習会が平成9年2月12日、3月11日、4月15日と3回に分けて行われた。この若手技術者向け講習会は中部支部平成8年度においても6回シリーズで実施されており、大変好評であった。第2弾として今年度も開催されました。JSCA 法人5周年記念事業として「若手構造技術者のための設計と施工」と題して資料が作成され、これをベースに、できるだけ事例に基づいて、わかりやすく説明し、設計上大切なことにも関わらず見落としがちなる事項や不具合、失敗に結びつきやすい事例を含め、必要かつ重要な事項について、造詣の深いベテランのJSCA 会員が講師を努め下記の内容で行われた。

1. 建物の作り方(講師 飯島建築事務所 道倉隆雄氏)

「建物の作り方」というテーマに始まった今回の研修は、白紙に近い状態で受けた入社当時の入門的な研修とは違い、実感として身にしみるものでした。特に、初心者の方にとって「壊れかたをイメージして設計する」という内容は、計算のみに追われる日常の業務にあって、意外と盲点であったと反省させられました。



(株)竹中工務店
下野 耕一

今回の講習会は、構造技術者になろうとする私にひとつの方向を示してくれました。

特に、あいさつの「構造技術者は計算者でなく、設計者でなくてはならない」という言葉は、私に深い印象を残し、視野を広げてくれました。

今後、この講習会で学んだことを基礎として、柔軟な思想を持てる幅広い構造設計者になれる様努めていきたい。



(株)丹羽英二
建築事務所
福井 政弘



講習会風景

2. 構造と材料(講師 野田建築事務所 野田康正)
3. 建物と災害と構造設計(講師 日建設計名古屋事務所 斉藤幸雄)

明日の構造設計をにやう若手構造技術者 57 名の参加があった。

私が建築構造の仕事に携わるようになって早5年目を迎えました。日常は構造計算業務におられる毎日です。今回の講習会では、有名な建物の構造をスライドでわかりやすく説明していただき私にとって良い経験になりました。今後の実務に活かしていきたいと思



(株)伊藤工務店
加藤 学

入社して早6年に入りました。仕事といえば、意匠担当の理不尽な変更を腹を立て、コンピューターのはじき出てくる数字に追いかけている毎日です。若手対象と聞き参加しましたが、そのレベルをもう卒業していることに気づき早くベテランにならねばと焦る反面、構造技術者としてのこれまでの姿勢を深く反省し新たにしてくれた講習会でした。



鹿 島
西村 加代

ビジョンに挑むMBTです。

見果てぬ夢も未だありますが、新しい世紀に向かって技術の先端の、その先にあるものへ挑戦する。それが私たちのアイデンティティです。



株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産

●本社/東京都港区六本木3-16-26 TEL.03-3582-8811(直) FAX.03-3583-3800
●名古屋営業所/名古屋市中区錦3-4-6(東海銀行第一生命ビル)

TEL.052-962-5255 FAX.052-962-5259